

2024年3月10日（日）第二礼拝「主が与えられた地を占領するのだ」士師記11章24節

この御言葉を宣言した人は士師のエフタですが、彼は逆転の人生を歩みました。彼は勇士でしたが遊女の子でした。そんな彼を兄弟たちは追い出し、ギルアデの長老たちも彼を追い出すことに賛成しました。そのため、エフタはギルアデを離れ、トブの地にごろつきと共に住みました。ところが、アモン人がギルアデに戦争をしかけてきた時、ギルアデの長老たちはエフタに自分たちの首領になってほしいと懇願しました。そこでエフタは承諾しました。

第一番目、エフタは信仰の勇士でした。エフタは彼を追い出した兄弟や長老たちに復讐しませんでした。悪を持って悪に報いず赦したのです。また、勝利の根源は神様にあると告白し、主の前に全てを報告しました(9節、11節)。エフタが神様と親密な関係を持っていたことが分かります。エフタが戦いの和解のためにアモン人の王に使者を送った時、アモン人の王は土地を返すよう要求してきました。しかし、聖書の歴史に通じていたエフタは「その土地はエモリ人の土地であり、主が占領させてくださった土地だ」と説明しました。

第二番目、神様から与えられた平安を奪われないようにしましょう。敵は神様が与えてくださった地を要求し占領しようとします。「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。」(ヨハネ10:10) 救われた当初というのは、鳥のさえずりや川のせせらぎを聞いただけでも主を賛美し、救いの喜びに満たされています。しかし、時間の経過と共にその救いの喜びが薄れていくのを体験します。というのは、神様が与えてくださった救いの喜びを敵が盗んでいくからです。この喜びや平安を取り戻さなければいけません。この世は神様からの平安を盗み、恐れで支配します。しかし、全き愛は恐れを締め出します。聖霊は愛と力と慎みの霊であり、私たちに平安を与えてくださいます。

第三番目、自由です。神様が私たちに召されたのは自由を与えるためです(ガラテヤ5:13)。私たちは罪責感や死や呪いに縛られることなく自由です。しかし偶像崇拝をする時この自由を奪われてしまいます。士師記には七つのサイクルがありました。イスラエルが偶像崇拝をする時、敵は侵略してきました。しかし人々が神様に助けを叫び求めると、神様は士師を立てて助け自由を与えられました。現在、世の宗教は統合されはじめ、反キリストを強制的に拝ませようと動いており、更に、同性愛を認める傾向にあります。私たちは神様から与えられた自由を奪われないようにしなければなりません。電子書籍はいずれ消えていきます。聖書を保管し守らねばなりません。また、聖書を一年に一読してしっかり読み、聖書の真理を子どもたちに教えていくことが大切です。私たちが戦う時、聖霊が共にいてくださいます。戦いは主のものであり、敵である悪魔を怖がることはありません。ヨナタンと道具持ちは剣でペリシテ人(戦車三万、騎兵六千、海辺の砂のように多い防衛兵)に打ち勝ちました。また、イスラエルが長年に渡る敵からの圧迫の中で、エフタに聖霊が下り、彼は自由と平安をもたらす士師となりました。私たちが聖書の御言葉を握って祈り、悔い改める時に聖霊は下って来られ、私たちの叫びを聞き自由を与えてくださるのです。アーメン！